


獨協大学長 殿

学外研修報告書

私は、学外研修員として出張しておりましたが、このたび研修を終えて帰任いたしました。つきましては、次のとおりご報告申し上げます。

報告日	2021 年 5 月 19 日	所属	英語学科
職名	教授	氏名	片山 亜紀  印
研修種別	1. 海外 (2.) 国内	研修種類	(1.) 長期 2. 短期
研修期間	2020 年 3 月 20 日 ~ 2021 年 3 月 19 日		
学外における主な研修機関および訪問先 一橋大学			
出張目的または研究題目 ヴァージニア・ウルフの今日的意義			
資格 1. 2020 年度獨協大学学外研修員 (派遣) 2. 本学承認の学外研修員 (自費等) 3. その他 ()			
大学から支給された費用 (要清算書類)・補助金額		50 万円	
研修内容 (1. 研修経過の詳細 2. 研究成果発表の予定 3. その他 を記入)			
1. 研修経過の詳細について 新型コロナウイルス到来の中での研修開始となったため、いくつか予定を変更せねばならないことがあった。しかしながら、新型コロナウイルスとの関連でヴァージニア・ウルフの作品を捉え直すことや、Zoomを使ったトークイベントに参加したり登壇したりもできたので、大変貴重な経験を重ねることができた。			

提出先：所属学部長→学長→人事課

裏面につづく

研修の全期間において、ヴァージニア・ウルフの今日的意義について、翻訳・論文・エッセイ、Zoom レクチャーという形で発表した。これらの成果はさらに一冊の本にまとめる予定である。

研修期間の後半では、ウルフの同時代作家ジーン・リースの作品を翻訳した。当初の予定では、ウルフの『波』を翻訳する予定だったが、別の記者が取り組んでいらしゃると聞いて、リースの Good Morning, Midnight という作品を手がけることにした。翻訳は完成し、現在、出版社に打診している最中である。またリースを翻訳することで改めてウルフの特徴も見えてきたので、私の研修機関である一橋大学において、中井亜佐子教授の授業の中で報告を行い、有意義なコメントをいただくことができた。

2. 研究成果発表の予定

(1) おぼに公表したもの

(論文) 「ヴァージニア・ウルフの #MeToo」(『季論』2020年夏号) 173~89頁。

(翻訳) ヴァージニア・ウルフ「病気になるということ」(『ハヤカワ ミステリマガジン』2020年7月号) 98~121頁。

(エッセイ) 「『病気になるということ』訳出について」(日本ヴァージニア・ウルフ協会『ヴァージニア・ウルフ研究』2020年第37号) 129~32頁。

(口頭発表) IGSセミナー「ヴァージニア・ウルフのフェミニズム～現代日本との呼応」(2020年10月12日)。

(口頭発表) 一橋大学大学院、中井亜佐子教授の授業内にて「二つのコスモポリタン・フェミニズム～ヴァージニア・ウルフとジーン・リース」(2020年12月3日)。

(2) これから発表予定のもの

(研究書) 『ウァージニア・ウルフ入門 (仮題)』

(翻訳記) 『ジーン・リース『真夜中よ、おはよう』 (仮題)』

3. その他

新型コロナウイルス感染拡大の中、女性のリプロダクティブ・ライツが脅かされている状況がある。ジェンダー研究者としての社会活動を行うため、国際セーフ・アボーション・デー Japan プロジェクトという市民団体に参加した。2020年9月27日には国際セーフ・アボーション・デーを記念したイベントが行われ、その中で「四半世紀後の妊娠小説」というトークを担当した。同トークは現在も YouTube で公開中であり (<https://youtu.be/16m5SDcoYPbg>)。またプロジェクトの活動について、『中絶についてもっと話そう!』- 国際セーフ・アボーション・デー Japan プロジェクトのオンライントークから』というタイトルで、雑誌『女も男も』(137号)に掲載予定である。